

(案)

神戸が目指す これからの学校の姿
「人がつながり ともに創る みんなの学校」

令和4年4月 神戸市教育委員会

目 次

神戸が目指すこれからの学校の姿「人がつながり ともに創る みんなの学校」	・・・ 2
1. 策定の趣旨	・・・ 3
2. 概要	・・・ 4
3. コンセプト	・・・ 5
4. 取組の3本柱	・・・ 6

神戸が目指す これからの学校の姿

「人がつながり ともに創る みんなの学校」

(コンセプト)

子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。
学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、
地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。

(取組の3本柱)

- 1 育てたい子供の姿を共有します
育てたい子供の姿を保護者、地域の皆さんと共有し、
連帯感を持って子供たちの学びと成長を支えます。
- 2 親しみやすい学校をつくります
地域がつながる場として、みんなが訪れたいくなる、
親しみやすい学校環境をつくります。
- 3 子供を育む活動をともに進めます
保護者、地域の皆さんとの関わり合いと連携を深め、
育てたい子供の姿の実現に向けて、ともに活動を進めます。

1. 策定の趣旨

近年、技術革新やグローバル化、少子高齢化の進展など、急速な社会の変化に伴い、学校を取り巻く状況は複雑化・多様化しています。

こうした中、「心豊かにたくましく生きる」神戸の子供たちを育むには、保護者、地域の皆さんと「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を共有し、これまで以上に連携を深め、地域全体で子供たちの学びや成長を支える、地域とともにある学校づくりを進めていく必要があります。

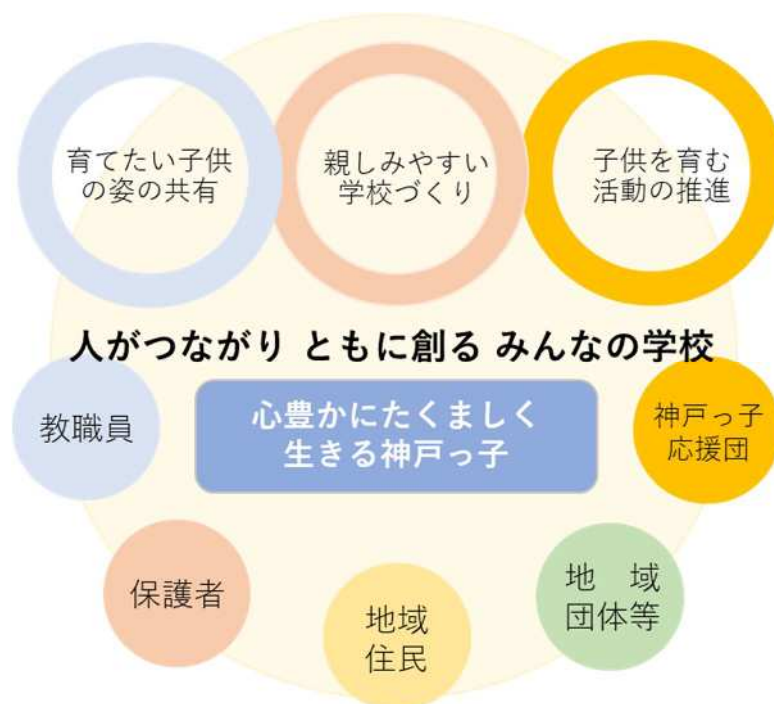
地域に開かれた学校から一歩踏み出し、地域とともにある学校としていくための中心となる施策が、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進です。本市では、保護者・地域の皆さんのご意見を学校運営に活かす学校運営協議会の設置を段階的に進めており、令和4年度中にすべての小・中学校に学校運営協議会を設置することとしています。

このコミュニティ・スクールの全市展開にあたって、令和3年12月より、学識や保護者、地域の皆さんの幅広い参画による「開かれた学校づくりに関する有識者会議」を開催し、それぞれの立場からみたコミュニティ・スクールの現状や課題、目指すべき学校づくりの方向性について議論を重ねてきました。

この「神戸が目指す これからの学校の姿 -人がつながり ともに創る みんなの学校-」（以下、「神戸が目指す これからの学校の姿」）は、同会議の議論を踏まえて、本市が目指す学校づくりのコンセプト、柱となる取組を明らかにしたものです。

取組の3本柱については、すべての小・中学校に学校運営協議会を設置する令和4年度から令和5年度の、いわば「導入期」をイメージしたものです。この「導入期」においては、まずは、学校が地域に開かれた学校づくりに対して明確に意識を持ち、保護者や地域の皆さんとその意識を共有し、ともに取組を進めていくことが重要です。したがって、取組の3本柱についてはいずれも学校の行動指針として定めています。今後、各校の取組状況の成熟度を踏まえ、適時、内容を見直していきます。

「神戸が目指す これからの学校の姿」を学校づくりの指針とし、保護者、地域の皆さんとのつながりの輪の中で、「心豊かにたくましく生きる」神戸の子供たちを育てていきます。



2. 概要

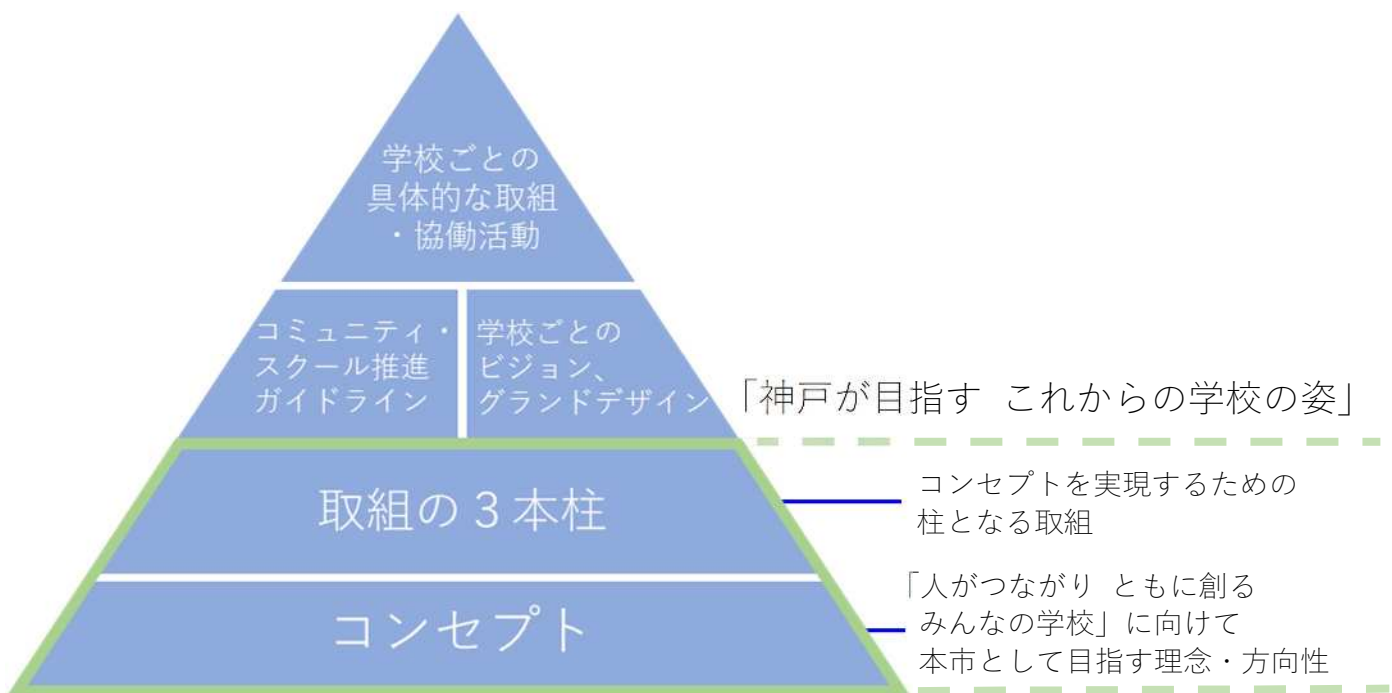
(1) 構成

「神戸が目指す これからの学校の姿」は、本市における学校づくりの理念・方向性を表す「コンセプト」と、それを実現するための「取組の3本柱」から構成しています。

各学校園において、「コンセプト」、及び「取組の3本柱」を踏まえ、育てたい子供の姿とそれを実現するための取組を明示した学校ビジョンを作成します。

そして、保護者、地域の皆さんと同じビジョンのもと協働活動を実施し、一体となって地域とともにある学校づくりを進めていきます。

<「神戸が目指す これからの学校づくりの姿」と取組の全体像>



(2) 位置づけ

「神戸が目指す これからの学校の姿」の策定は、第3期神戸市教育振興基本計画の重点事業である「地域と学校との協働による社会に開かれた教育の実現」、及び神戸市教育委員会改革方針 2021 に掲げる「開かれた学校づくり」を具体的に推進するための取組の一つです。

(3) 取組の3本柱の考え方

今回の取組の3本柱は、すべての小・中学校に学校運営協議会を設置する令和4年度から令和5年度の「導入期」をイメージしています。

次期神戸市教育振興基本計画を策定する中で、各校の取組の成熟状況を踏まえて見直しを図り、段階に応じて取組の柱を再設定していきます。

3. コンセプト

子供たちの生きる力を育むのは、人と人とのつながり。
学校、保護者、地域の皆さんのつながりの輪の中で、
地域とともに創る学校を実現し、未来の担い手となる神戸っ子を育みます。

これからの時代において、複雑化・多様化する教育課題に適切に対応し、一人一人の子供に寄り添った質の高い教育を提供するためには、学校、保護者、地域の皆さん、それぞれが多様な経験やスキルをもち寄り、社会総がかりで子供たちの学びや成長を支えていく必要があります。

子供たちを中心に据えて、保護者、地域の皆さんと連帯感をもって教育活動に取り組む学校、人と人とのつながりの輪の中で子供たちの生きる力を育む学校、これが、本市が目指すこれからの学校の姿です。

【参考】主な委員意見

- ・「開かれた学校」は最低限のステップ。一歩踏み出し「地域とともにある学校」づくりを進めなければならない。
- ・これまでのように、子供の教育はすべて学校にお任せするというだけでは、今後の学校教育は成り立たない。いじめの問題一つを取ってみても、ネットいじめもあるため、学校だけで対応できるものではない。家庭との協力なくして子供の健全育成はできない、ということは明らかである。
- ・つながりの中で育まれるものが「社会性」だけでは、捉え方が小さいのではないか。
- ・学校、家庭、地域が応分の責任を持って子供を育てていこう、というのがコミュニティ・スクール制度の背景にある考え方である。
- ・従来は学校中心主義で、学校に任せておけばよい子に育つというような、学校に対する絶対的信頼が前提としてあった。それでは学校教育は成り立たないということが明らかとなってきたため、今までの枠組みを少し変えて、地域や保護者の方々にも学校運営に参加していただき、子供のために何をしたらいいのかということと一緒に考えて進めていこう、ということかと思う。
- ・保護者や地域が、教育委員会と学校に続く第3の目になるべき。学校で起こる問題は学校の責任だけではない。
- ・学校と保護者・地域住民が信頼関係を構築するには、制度としての学校運営協議会をより一層活用すべきである。
- ・学校と地域の目線の違いを感じるケースがある。これからの学校教育は地域の協力のもと取り組む必要がある。

4. 取組の3本柱

1 育てたい子供の姿を共有します

育てたい子供の姿を保護者、地域の皆さんと共有し、連帯感を持って、子供たちの学びと成長を支えます。

保護者、地域の皆さんに当事者として学校運営に参画いただくためには、どのような子供を育てたいのか、そのビジョンを共有することが不可欠です。

子供たちの今の姿や自校の現状・課題、地域特性等を踏まえ、学校教育を通じてどのような能力・資質を育み、保護者や地域の皆さんの思いにこたえていくのか、そのビジョンを校長が作成し、学校運営協議会で共有してご理解をいただくプロセスを踏むことが、地域とともにある学校づくりの出発点となります。

【参考】主な委員意見

- ・ 学校と保護者・地域住民等との情報共有、相互理解が重要。まずは学校側が自校の現状や課題を保護者・地域住民にオープンにし、学校教育に対する関心や意識を高めていく必要がある。そのうえで、育てたい子供像や学校ビジョンを保護者・地域住民等と共有し具体的な取り組みを考えていく。
- ・ 重要なことは、ビジョンなどを一緒に創りあげていくプロセスそのものである。
- ・ 何のために開かれた学校づくりを行うのか、学校運営協議会において、目的・目標を明確にする必要がある。
- ・ 校長の熱いビジョンがあつてこそ、保護者や地域にも学校をより良くしていこうという気持ちが生まれる。
- ・ 市民目線で学校を見たときどのように見えるのかということ、これを学校運営に活かすことが、コミュニティ・スクールという制度の1丁目1番地ではないか。
- ・ 校長が変わると学校の取組が大きく変わるケースがある。学校課題に対し、学校運営協議会を中心に継続的に取組を進める必要がある。
- ・ 保護者・地域住民の「学校運営・学校経営への参画」とは、学校と保護者・地域住民が教育目標や学校ビジョンをともに作り上げ、力を合わせて行動していくこと。
- ・ 例えば、制服や校則について、学校運営協議会の中で当事者としてご意見をいただき、学校が変わっていくという、そのような学校運営の当事者として関わっていただくという仕組みを作ることが重要である。
- ・ 校長が変わると学校の取組が大きく変わるケースがある。学校課題に対し、学校運営協議会を中心に継続的に取組を進める必要がある。

2 親しみやすい学校をつくります

地域がつながる場として、みんなが訪れたいくなる、
親しみやすい学校環境をつくります。

地域とともにある学校づくりを進めるには、保護者、地域の皆さんにとって、学校が身近で親しみやすい場であることが求められます。そのためには、学校、保護者、地域の皆さんとお互いの情報を共有し、相互理解を深めていくことが欠かせません。まずは、学校の状況、とりわけ子供たちの実情に関する正確な情報を積極的に発信し、保護者、地域の皆さんの学校に対する関心を高め、取組をご理解いただく必要があります。

さらに、子供たちにとって安全で安心できる、質の高い教育環境づくりをより一層推めるとともに、学校施設のさらなる開放や施設の共同管理等を通じ、地域がつながる場としていくことが重要です。

【参考】主な委員意見

- ・子供や先生たちも快く迎え入れてくれる学校、訪れやすい学校、そういう状況をつくっていくことが大事である。
- ・学校ごとに考え方に温度差があり、地域が入りやすい学校と、そうではない学校がある。
- ・教職員の多忙化や地域の担い手不足などの課題がある中で、開かれた学校づくりを進めるには、お互いを良く知ることが重要。
- ・学校の状況を保護者の方々にもきちんと知っていただき、学校がどこまで、どのように努力しているかということを踏まえたうえで、何をしようかという話をしていかなければならない。
- ・保護者や地域には学校の教育課題や考え方、困っていることが分からない。まずは学校側から課題等を共有していただき、地域と何を一緒にできるか考えてはどうか。
- ・学校からの情報発信については、現状や課題だけでは不十分。学校として、こういう子供を育てるという目標、目指す姿を発信することが必要。
- ・学校施設を基軸に地域コミュニティを再構築するのは一つの方向性。地域がもう一度結束する場所として学校を活用し、結束した地域に学校運営に関わっていただければよい。
- ・開かれた学校の一つの形として、さらに施設開放を進めるべきである。
- ・学校をもっと市民に開かれた施設にしていくことで、今以上に、若い人の参画が期待できるのではないか。
- ・コミュニティ・スクールは、学校教育を核として、地域コミュニティを再構築する試みでもある。

3 子供を育む活動をともに進めます

保護者、地域の皆さんとの関わり合いと連携を深め、
育てたい子供の姿の実現に向けて、ともに活動を進めます。

これからの学校教育は、保護者、地域の皆さんとの協働なくして成り立つものではありません。学校運営協議会において育てたい子供の姿や学校ビジョンについて熟議し、神戸っ子応援団等と一緒にあって、その実現に向けた活動を進めていく必要があります。

まずは学校や地域の実情に応じて可能な活動からスタートし、その成果を発信・共有することにより、参加者の数を増やし、協働活動の輪を広げる。学校教育を持続可能なものとするためには、こうした子供と大人（教職員、保護者、地域住民、地元企業・団体等）の関わり合いによる好循環を生むことが重要です。

【参考】主な委員意見

- ・学校運営協議会がヘッドクォーター的な役割、応援団がその実働的な役割を担う。
- ・スタートもゴールも学校・地域ごとに異なる。それぞれの状況に応じて、できることから取り組み、良くなっていく、変わっていくという仕掛けが必要。
- ・学校においても、地域においても、関わる人材を増やし、連携の面的広がりを確保していく必要がある。
- ・連携しているように見える学校と地域であっても、連携しているのは管理職や一部の保護者・地域住民に限られている状況。これでは相互理解には至らない。
- ・様々な活動に参加する中で、よかったなとか、これならできる、という経験を共有していけば、徐々に人のつながり・参加人数が増えていく可能性はある。
- ・地域との連携を担当する教職員が一部に限られている。神戸っ子応援団活動を一部の教職員しか知らない。
- ・「連携と協力を深める」よりも、一步踏み込んで「ともにある」あるいは「協働」という言葉を打ち出した方がよいのではないか。
- ・「小中連携」という視点も重要。やはり小学校と中学校は連携していかなければならない場合がある。
- ・子供たちにとって、地域住民との交流・コミュニケーションを通じ、教員や家族以外の考え方を知ることが非常に重要。
- ・地域も高齢化が進み、疲弊化している状態。学校運営協議会や学校との協働活動を中心に、地域の活性化にも繋がればよい。

コミュニティ・スクール推進のガイドラインの骨子について（案）

1 位置づけ

○「神戸が目指す これからの学校の姿」

- ・「神戸が目指す これからの学校の姿」は、地域とともにある学校づくりを進め、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、本市として目指す学校づくりのコンセプト、柱となる取組を明らかにしたものであり、学校園と取組の方向性について共通認識を持つこと、及び保護者や地域住民に対し本市の姿勢を明らかにすることを目的とする。

○コミュニティ・スクール推進ガイドライン

- ・一方、コミュニティ・スクールは「これからの学校の姿」を実現するための具体的な施策であり、ツールとなる仕組みである。ガイドラインを策定し、学校園に周知をすることで、市全体でコミュニティ・スクールをしっかりと推進し、「これからの学校の姿」の実現を目指す。
- ・なお、令和3年3月に発出している「コミュニティ・スクールの手引き」については、学校園が事務を行うためのマニュアルであり、今後、ガイドラインの内容も踏まえ、必要に応じて改訂する。

2 作成方針

- ・学校園、教職員がコミュニティ・スクールを進める際の指針となるものとする。
- ・これまでの有識者会議における議論を踏まえ、学校運営協議会及び協働活動の活性化に向けた推進サイクル、留意事項等を記載する。

3 項目案

1. コミュニティ・スクールについて

- ・概要、ガイドラインの位置づけ
- ・将来的に目指すべき姿とステップ

2. 推進のサイクル

- ・情報・課題の共有 → 育てたい子供の姿、学校ビジョンの共有 → 協働活動の実施

3. 学校運営協議会

- ・役割と機能、委員の人選の視点、効果的な情報発信

4. 学校と地域との協働活動

- ・活動内容の重点化、各校の実情に応じた活動の実施
- ・神戸っ子応援団、ふれあい懇話会等、従来の取組との一体化
- ・活動の活性化に向けた取組
(管理職以外への教職員に対する周知、小中連携、市長部局等との連携等)

5. コミュニティ・スクールの取組に関する評価